

OS2

河川技術の今後のあり方
～ これから100年の川づくり ～

総合討議2

次代の技術者が描くこれからの川づくりについて

オーガナイザー： 戸田祐嗣・内田龍彦

パネラー紹介

[パネラー]

内田 龍彦 中央大学研究開発機構

中村 圭吾 国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究室

渡邊 泰也 国土交通省水管理・国土保全局河川計画課

田村 浩敏 (株)建設技術研究所

[進行役]

戸田 祐嗣 名古屋大学大学院工学研究科

河川技術の新たなステージに向け

テーマ：これからの河川技術（100年後は目安）

- ・今後、社会や洪水外力は確実に変化していく。
- ・その変化の度合は**不確実性**なものであるが、社会が納得する整備のために**どのようにシナリオを立案**していけばよいのか
- ・地域を含めた整備には**長い期間が必要**であり、その中で社会も変化する。

考え方の一例：河川整備含む社会インフラの再構築へ

- | | |
|------------------|---------------|
| ① 地域に対するきめ細やかな整備 | ⇒ 更なる最適化の可能性 |
| ② 特定目的から複合機能へ | ⇒ 機能転換含めた多機能化 |
| ③ 分野の横断的な展開へ | ⇒ 他分野による横断的対応 |

今回のテーマの目的

今一度「河川技術」進むべき方向を見直す良い機会ではないか
技術者が幅広い創造力を持ち、より思考を深化させていくために
(100年前の技術者は何を考えていたか)

「100年後の人々」が「100年前こんなことを考えていたんだ」
⇒ 感銘を受ける技術でありたい

論点1:「温暖化適応策とこれから100年の川づくり」

- ✓ 基調講演, 総合討議1を受けて

論点2:「これから100年の川づくりに向けた技術的課題」

- ✓ 10年先ではなく, 100年先を見据えた技術的課題とは?
- ✓ 「河川技術」→「流域管理技術」, そのコアとして河川技術
- ✓ ビックデータのようなデータ量の飛躍的増大は確実視. 今の技術でそれを上手く扱えるのか?
- ✓ 遠くの議論をするためにも, 現時点で確実に技術向上が必要な課題は?

論点3:「これから100年の川づくりに向けた体制的な課題」

- ✓ 社会(流域)と河川を一体として見ていくために, 河川を管理する体制や仕組みはどのように変わらないといけないのか?
- ✓ 予算, 技術者の数が減っていきそうな状況で, どう河川を管理するのか?(人口減, 財政的制約)

論点4:「これから100年の川づくりを担う人を作るために」

- ✓ 川づくりにたずさわる仕事が、より魅力的で生き生きとしたものになるには？
- ✓ やる気と力を持った若い人がこの分野にどんどん集まってくるために、**学問・技術体系**としてどう変わっていく必要があるのか？
- ✓ そもそも**川そのものに魅力**が無いと、これからの川づくりに若い人は集まらないのでは？

論点5:「100年後のビジョンはどこまで描けるのか？」

- ✓ 過去100年と今後100年は違うだろう。河川に求められる根源的部分は普遍？
- ✓ 100年後に突然100年先の川づくりがあるわけではない。どれぐらい、どのように**将来を見据えながら、なおかつ、着実に**取り組めることを進めていくべきか？

論点1:「温暖化適応策とこれから100年の川づくり」 ← 自然(外力)

基調講演, 総合討議1を受けて……

論点2:「これから100年の川づくりに向けた技術的課題」 ← 技術

100年先を見据えて, 流域管理技術, ビッグデータ, 確実に技術向上が必要な課題……

論点3:「これから100年の川づくりに向けた体制的な課題」 ← 社会・体制

社会(流域)と河川を一体として見ていくために, 人口減, 財政的制約……

論点4:「これから100年の川づくりを担う人を作るために」 ← 人材育成

川づくりにたずさわる仕事の魅力, 学問的魅力, 川そのものの魅力,

論点5:「100年後のビジョンはどこまで描けるのか？」

将来を見据えなおかつ着実に

← ビジョン